生態系に配慮した地域資源保全の推進

標茶西地区農地・水保全隊（北海道標茶町）

○ 標茶町は、北海道の東部に位置する大規模酪農地帯で、釧路湿原に隣接し、特別天然記念物であるタンチョウが生息するほか、貴重な野生動物の生息地として生態系保全が特に重要な地域である。

○ 地域では、離農跡地の引き受け手も少なく、生産意欲が低下し、遊休農地の発生が懸念されていた。

○ 当活動組織は、平成20年度から本交付金を活用し、排水路や農道の草刈り等を実施し、遊休農地の発生防止に取り組むとともに、畜産排水が環境に与える影響に配慮し、草地の土砂等が湿原に排出しないよう、沈砂池の適切な維持管理や水質の保全に取り組んでいる。

○ 生態系保全の取組は、地域に取組の一体感が生まれ、遊休農地化の発生を防止するとともに、担い手への農地利用集積へと繋がり、草地の保全が図られている。

【地区概要】
- 取組面積　1,473ha （草地 1,473ha）
- 資源量　開水路13.1km、農道19.9km
- 主な構成員　農業者、非農業者、JA
- 交付金　　約320万円（H29）

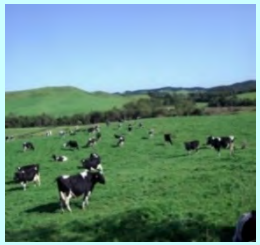
（農地維持支払
資源向上支払（共同））

活動開始前の状況や課題

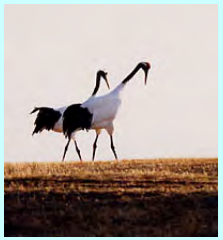
○ 日本最大の湿原である釧路湿原は、特別天然記念物であるタンチョウのほか、イトウ、キタサンショウウオなど魚類等、多くの希少種が生息

○ 近年は、離農が増加傾向にあり、担い手不足から農業用施設の維持管理の粗放化等による遊休農地の発生も懸念

○ 希少種の保護の観点から、草地からの土砂の流出や雑草、ゴミの拡散など生態系保全には特に配慮すべき地域



大規模酪農地帯



タンチョウ

取組内容

○ 排水路や農道の草刈りを実施し、除草後の草の適正処理と併せてゴミ拾いを行い環境保全の取組を実施

○ 地区内7箇所の大規模な沈砂池の泥上げを定期的に行い、通水機能の確保に取り組む

草地からの土砂を沈殿させて、
写真奥側下流の釧路湿原へ排水

排水路法面の草刈

沈砂池の泥上げ
（3年に1回（沈砂池数7））

取組の効果

○ 草地からの排水は、沈砂池の適正管理で土砂を流出させず、畜産排水は環境への負荷を極力低減させて釧路湿原に排出

○ 希少動物の生息環境に配慮しながら地域で環境保全に取り組む意識も向上し、地域の一体感が生まれる

○ 地域の共同活動が遊休農地の発生を抑制し、平成20年度から当地域での遊休農地の発生はない

農道の草刈

農道のゴミ拾い